東南アジア研究センター
1968年度第4・四半期報告

1969年1月から3月にいたる，1968年度第4・四半期の東南アジア研究センターの活動状況を要約報告する。

現地調査研究としては，前期にひきつづき福井捷朗助手（東南ア研）が，バンコク連絡事務所長代理として勤務するとともに，水稲の植物栄養学的研究をつづけている。

11月上旬以来，タイ研究計画の予察のためタイに赴いていた服部共生助教授(京都府大，土壌学)，渡部忠世教授（鳥取大，農学）および秋浜友也技官（農技研，遺伝学）は1月末帰国した。なお，高谷好一助教授（東南ア研，地質学），瀬戸口烈司助手（東南ア研，古生物学）の両名は，4月下旬まで予察を続行する予定である。川口桂三郎教授（農，土壌学）は，久馬一剛助教授（東南ア研，土壌学）とともに，1月上旬よりフィリピンに赴き，水田土壌の土壌学的調査を行なった。

また佐藤孝教授（神戸大，農学）は，インドネシアにおける畑作物にかんする予備調査を行なった。

出版計画としては，Reports on Research in Southeast Asia, Natural Science Series No. 4, Keizaburo Kawaguchi & Kazutake Kyuma, *Lowland Rice Soils in Thailand* が刊行された。本書は，川口桂三郎教授を中心として行なわれている東南アジアの水田土壌の比較研究の報告書の第1冊をなすものであって，続刊が予定されている。

1964年より1968年まで4カ年にわたり，所長としてセンターの発展につくされた人文科学研究所岩村忍教授は，本日付をもって停年退官されることになった。センターとしては，本号を「岩村忍教授退官記念号」として，岩村教授の御功績にお報いしたいと思う。本号に掲載された論文の執筆者の多くは，岩村前所長の指導の下に，東南アジアの各地に赴いて現地調査を行なった新進気鋭の研究者たちである。本号の目次そのものが，岩村教授のセンターおよびひろくわが国の東南アジア研究の発展に対する貢献の大きさの無言のあかしであるといえよう。岩村教授の今後益々の御発展をお祈りする次第である。

わたくしは，本日付をもってセンター所長の任期を満了し，市村真一教授（東南ア研，経済学）にその職を引き継ぐこととなった。在任中，各位より寄せられた御厚意，御協力に対し，あつく御礼申しあげたい。

1969年3月31日

京都大学東南アジア研究センター所長
相　良　惟　一